

第14回 外交とは何か

「文化交流から文化外交へ」を考える上で、ここでは「外交」とは何か、そして「外交」を考える上で重要とある「国益」について取り上げていきたい。

(1) 外交とは何か

「外交」の一般的な定義を『広辞苑』（第6版）より見ておこう。

外国との交際。国際間の事柄を交渉で処理すること。⁽¹⁾

専門書にはどのように定義されているのだろうか。

外交は国民性の反映である。⁽²⁾

外交とは、交渉による国際関係の処理であり、大公使によってこれらの関係が調整され処理される方法であり、外交官の職務あるいは技術である。⁽³⁾

その国の地理的、歴史的基盤を踏まえ、その政治目的を達成するために外に対して用いる手段、方法、技術をさす、、、また外交はその国の有する国力の反映であるともいえよう、、、元シカゴ大学のハンス・モーゲンソー教授によれば、国力は、地理、自然資源、工業力、軍備、人口、国民性、国民の士気、外交の質、政府の9つの要素に分類できるといふ。⁽⁴⁾

定義としてもうひとつ『外交フォーラム』より紹介しておきたい。

外交とは、異なる社会の間で、相互の関係を安定させ、問題が生じた場合にはそれを平和的に解決することを目的として行なわれる交際⁽⁵⁾

(2) 外交と国益

「外交」は政治目的を達成するものであるから、その政治目的が何か重要となろう。一般に政治目的は「国益」が基盤であることは言うまでもないことだ。しかし、この「国益」とは何かを考えると、意外にも明確ではない。「国益」の一般的な定義を『広辞苑』（第6版）より見ておこう。

国の利益。国利。⁽⁶⁾

もう少し具体的な定義を見てみよう。

[英] national interest

国益は国家が政策を決定する「基準」である。ハンス・モーゲンソー Hans Morgenthau は、国益を国家がしたがうべき「1つの指針、1つの思考基準、1つの行動規範」と定義し、国家の対外政策は純粋な「国益」に基づいて決定されるべきであると主張している。国際政治の現実主義 (realism) では、国家は合理的なアクターとして想定されるために行動を取ると考える。⁽⁷⁾

外交について考えるに当たっては、何が国益かを考えることつねに必要であるが、簡単なようで、実は、それを見極めることはなかなか困難な作業である。国益というものを短期的なものとして捉えるか、長期的なものとして捉えるかによっても、違う結論が出てくるだろう。⁽⁸⁾

国家にとって国益ほど重要な言葉はない、ということである。国益は国家の対外行動を決定する最大の要素である。⁽⁹⁾

外交を考えるには国益を考えなければならぬということだ。しかし、その国益の定義は長期的なものと短期的なもの、さらには時代によっても大きくことなること、さらには国内事情だけでなく、国際情勢とも大いに関連してくるだけに、難しいと言わざるを得ない。

注

- (1) 新村出編『広辞苑』（第6版）（岩波書店、2008年1月）、p.458.
- (2) 武田龍夫『世界の外交』（サイマル出版会、1994年4月）、p.194.
- (3) H.ニコルソン／斎藤真・深谷満雄訳『外交』（東京大学出版会、1968年9月）、p.7.
- (4) 池井優『増補 日本外交史概説』（慶應通信、1982年6月増補版）、p.1.
- (5) 中西寛「外交とは何か―異なる社会の共存の作法」（『外交フォーラム』通巻226号、2007年5月）、p.44.
- (6) 『広辞苑』、p.963.
- (7) 大澤淳「国益」（猪口孝編『国際政治事典』弘文堂、2005年12月）、p.321.
- (8) 大江博『外交と国益』日本放送出版協会、2007年7月）、p.14.
- (9) 小原雅博『国益と外交』日本経済新聞社、2007年10月）、p.11.